

科目名	ものづくり実習 3							年度	2026
英語科目名	Fabrication Practice 3							学期	前期
学科・学年	建築設計科 2年次	必/選	必修	時間数	30	単位数	1	種別※	実習
担当教員	升水 健太	教員の実務経験		有	実務経験の職種		建築設計		
【科目の目的】 ・ものつくりの授業として住宅に合う人体系家具のデザインを行う									
【科目の概要】 人体系の家具を作ることを目的とするが、設計課題とのつながりを考慮したものづくりを行う。									
【到達目標】 A. ものを計画するときの適切なデザインできている B. 設計課題との関連性がある									
【授業の注意点】 評価はルーブリックにもとづいて行い、指導教員等により講評会において評価を行う。									
評価基準＝ルーブリック									
ルーブリック 評価	レベル3 優れている		レベル2 ふつう				レベル1 要努力		
到達目標 A	ものを計画するときの適切なデザインできている、機能的である		ものを計画するときの適切なデザインできている				ものを計画するときの適切なデザインができていない		
到達目標 B	設計課題との深い関連性がある		設計課題との関連性がある				設計課題との関連性がない		
到達目標 C									
到達目標 D									
到達目標 E									
【教科書】 配布資料による									
【参考資料】									
【成績の評価方法・評価基準】 成果品等で評価する									
※種別は講義、実習、演習のいずれかを記入。									

科目名		ものづくり実習 3			年度	2026
英語表記		Fabrication Practice 3			学期	前期
回数	授業テーマ	各授業の目的	授業内容	到達目標＝修得するスキル	評価方法	自己評価
1	調査1	ものづくり実習 3	1 住宅系家具のデザイン史を知る。	住宅系家具のデザイン史を知る事ができる	2	
2	調査2				2	
3	調査3				2	
4	調査4				2	
5	デザイン1	デザイン	1 適切な素材、構法を選定し実際にデザインを行う。	スケッチを通しデザインを創作する	2	
6	デザイン2				2	
7	デザイン3				2	
8	デザイン4				2	
9	デザイン5				2	
10	制作1	制作	1 部材を切り出す。	正確且つ、適切な大きさに切り出していく	2	
11	制作2				2	
12	制作3		2 仮組	部材を正確、丁寧に組み立てる	2	
13	制作4		3 本組		2	
14	制作5		4 塗装工程		2	
15	発表		1 講評を受ける	他者のデザインを知り自分のデザインの幅を広げる	2	
評価方法：1. 小テスト、2. パフォーマンス評価、3. その他						
自己評価：S：とてもよくできた、A：よくできた、B：できた、C：少しできなかった、D：まったくできなかった						
備考 等						